

どてらごや

第 8 号
平成21年12月
瑞宝山 不動寺
TEL 75-4862

新年は奥の院へ初詣 いかがですか？

奥之院の水向け地蔵尊の手前に大黒殿御供所があります。ここはお大師さまに生身供(しょうじんく)を調理準備する目的で建てられました。

午前6時と10時半の2回、御供所内で調理された生身供はお櫃に移され、北側の嘗試(あじみ)地蔵にお供えされたあと、御廟前に運ばれます。

雪の日も雨の日も嘗試地蔵を経て灯籠堂へと生身供を運ばれる大きな紙マスクをした二人の行法師の姿は、現在も永遠の禅定に入られているという弘法大師信仰を象徴するものとして広く知られています。



御供所正面の唐破風内には大黒天が祭祀され、脇仏には毘沙門天と弁財天が安置されています。両側の格子窓はお札守りの授与や御朱印の受付となっていて、一年を通して信者の姿が絶えることはありません。

奥の院御供所が現在のように豪壮なたたずまいとなったのは、文久二(1862)年の再建時でした。総檜造りの檜皮葺の上品な趣に満ちた堂宇は、弘法大師御廟参拝時の要所として多くの人々の信仰を集めてきましたが、建立から百年を数えた昭和37年1月26日、失火による火災で全焼を余儀なくされました。これにより、祭祀されていた大黒天をはじめ、聖天、弁財天及び毘沙門天像、狩野派の筆と伝えられた襖絵などが灰燼に帰しました。

しかし、再建を願う全国の大師信者の熱い思いが結集し、御供所は驚異的なスピードで復興の緒に就くのでした。

まず、参道から少し離れていた不動堂が水向け地蔵前に移築され、同年9月30日に御供所地鎮祭、翌年8月には現在の堂宇が完成しました。昭和39年6月には脇仏である弁財天像が大阪南師会より寄進され、その後、親王院寄進の本尊大黒天像が安置されたことにより、念願であった

御供所の尊容が全て整ったのでした。

尾州檜一木造り像高さ87センチの大黒天像は、日本三大黒の筆頭といわれる奈良松尾寺の重要文化財をモデルに彫像されました。

一般的に知られている大黒天は、七福神の一人として袋と槌を持って米俵の上に立つお姿が多く、開運福德や厨房を護る尊として広く信仰されていますが、この大黒天像は烏帽子をいただいた狩衣姿で、しばった右手を腰にあて、左手で肩から背にかけた大きい袋の端を握るお姿であり、国内では最古級の作例として知られています。

昭和37年の災禍で焼失した際、大黒天は自らのお姿が御供所とともに焦土と化してもその絶大なご利益で御供所を再建に導いてくれました。

その後、36年の月日を経た平成10年9月22日には近畿地方を縦断して各地に猛威を振った台風7号により、巨大な杉の倒木が御供所大屋根を直撃し、無残に半壊する災禍に遭いましたが、またも全国の篤信者の皆さまの信仰を集め、「平成の大修理事業」の一環としていにしへの尊容が復興できたのも、深甚なる大黒天のご利益を感じずにはいられません。

御供所の唐破風の前で凍える手を合わせ、大黒天の真言を唱えて寒空を仰ぐと、灰色の雲間から降りた雪の一つが瞳で溶け、心の中に優しく広がっていくように感じました。(高野山教報第1459号より引用)

(写真右)

お大師さんの月命日である毎月21日には廟参(びょうさん)といって、専修学院と尼僧学院の修行者が奥の院へお参りします。

一度同行してみても…!



11月のおやつ
卯の花ドーナツ

土寺小屋のご紹介
現在、土寺小屋では般若心経の解説 行きつ戻りつてなかなか進みませんが、()とお写経を中心に勉強()しています。いつでも自由に参加できますので、どうか遠慮なくお越し下さい。

不動寺ホームページのご紹介

Webページでは不動寺の歴史、土寺小屋や初不動大祭、子どもみこしのスライドなども掲載しています。一度のぞいてみて下さい。

[Web] <http://www.justmystage.com/home/fudoji/>